



人生100年時代の

健康管理

桐生大学 桐生大学短期大学部副学長 山科 章

【プロフィール】広島県生まれ。1976年広島大学医学部卒業後、聖路加国際病院内科勤務。99年東京医科大学循環器内科主任教授。2020年5月から現職。総合内科専門医、日本循環器学会専門医、前日本循環器病予防学会理事長。

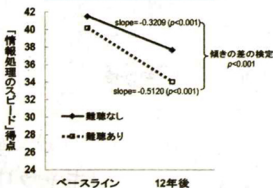
記憶しにくくなることもいわれています。米国の国立老化研究所の12年間にわたる追跡研究でも、認知症を発症するリスクは、難聴が軽度で約2倍、中等度で約3倍、重度の場合には約5倍と報告されています。

当欄でこれまで、「ピアリングフレイル」「加齢にともなう聴力低下」「聴力低下に気づく」

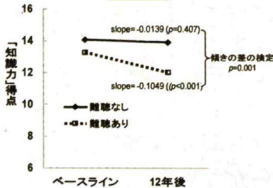
⑦ 聴力が低下すると...

保健・福祉

情報処理のスピード



知識力



難聴の有無別にみた知識力(左)と情報処理のスピード(右)の12年間の変化

Uchida Y 他, Frontiers in Aging Neuroscience, 2016; 8: 1-9 の論文を紹介した国立長寿医療研究センターニュース No. 33 「知的な能力と難聴の関係」から引用

つづには「と紹介する中で、聴力低下があると、知らず知らずのうちには人の会話がおっくうになり、人と会うことを避けるようになります。社会性が損なわれ、フレイルになる可能性があります」と紹介しました。難聴と認知症との関係も言われています。65歳以上の高齢者に認知症テストを行うと、難聴があつて補聴器を使つていない人は結果が悪くないの比べて、難聴があつても補聴器を使つていない人で、明らかに結果が悪く、報告がありま

す。難聴になると聞き取ることに多大のエネルギーを使い、内容を記憶しにくくなることもいわれています。米国の国立老化研究所の12年間にわたる追跡研究でも、認知症を発症するリスクは、難聴が軽度で約2倍、中等度で約3倍、重度の場合には約5倍と報告されています。

◆毎週月曜連載 桐生大学・桐生大学短期大学部副学長の山科章さんは、同大学医療保健学部の学生などに講義も開講している。

※次回は「聴力低下の原因と対策」です。